

## 卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	大阪大学	整理番号	1911
プログラム名称	多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	近藤 忠	プログラムコーディネーター	中野 貴志

### 卓越大学院プログラム委員会における評価

<p><b>[総括評価]</b></p> <p>S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。</p>
<p><b>[コメント]</b></p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、体系的で実効性の高い教育プログラムとして整備が進められ、全履修生に適用されているダブルメンター制度と個人カルテによる進捗管理システムが効果的に活用されている点、KPI がほぼ目標どおり達成されており、国際学術誌論文数や国際学会等での発表数が特に優れている点、令和6年度には志願倍率は5倍となり、他大学出身者・女子学生・留学生も一定数含む、より多様な学生を受け入れている点、当初の2研究科2専攻から令和6年度には3研究科6専攻となり、プログラム後半にかけて異分野交流・融合が実現されつつある点等は高く評価できる。</p> <p>修了者の成長については、プログラム修了者が、量子ビームの先端的活用という高度な専門性に加え、異分野連携力・社会実装力・国際的俯瞰力を備えた博士人材としてアカデミア・産業界・官公庁等において高評価を受けており、修了者自身の満足度も高い点、卓越人材の育成のため学外メンターとの交流や国外研修や研究活動を通じた研究意欲向上の取組が積極的に行われた点等が高く評価できる。今後は、このような実体験を通じたネットワーク構築により、専門分野を超えた様々な先端技術の役割や社会実装を俯瞰する能力のより一層の醸成が期待される。</p> <p>キャリアパスの構築については、Industry on Campus に代表される企業（令和7年度時点119社）を共同研究講座や協働研究所として学内に受け入れることで、学生が企業で研究する役割や意義を日常的に感じられる環境が身近に整えられている。加えて、企業を含む学内外での多様な研修や見学を通じて、博士人材におけるキャリアパスの広がりを履修生が実感し、アカデミア・企業・官公庁と多様な就職先で博士人材の活躍の場の拡大を見せている点、令和6年度までに18名の修了者を輩出し、同年度には修了者の過半数が企業に就職しており、本プログラムのキャリア形成支援が効果的であり、博士人材のキャリアパスの多様化に実績を上げている点等は高く評価できる。</p> <p>「在学就職制度」については、今後の活用促進と普及が期待される。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、本プログラムをモデルとして、オナー大学院プログラムが理工情報系と人文社会科学系で発足するなどの波及効果や、卓越大学院プログラムが属していた国際共創大学院学位プログラム推進機構について、本プログラムが原動力となり学際大学院機構に改組されたことで、全学的な運営統括・評価体制が整えられた点が評価できる。</p>